こんにちは

うみ議会です

2026.11.13
No.103
うみ議会だより
9月定例会

うみ 議会だより

第103号

◆発　行／福岡県宇美町議会
◆編　集／議会広報常任委員会
◆印　刷／井上紙工印刷（株）　◆発行日／令和８年11月13日

〒811-2192　福岡県糟屋郡宇美町宇美５丁目１番１号
TEL：092-934-2248　FAX：092-933-2281
E-mail：gikai@town.umi.lg.jp



P2 特集 令和7年度決算のここに注目!!
P6 暮らしにつながる議論　9月定例会 第3回臨時会
P9 一般質問 町政を問う8人が登壇
P18 委員会活動報告

20ページに表紙関連記事を記載

議会中継サイト
こちらから

Koe Meter
声メーター
実施中！
議会広報が聞いたみなさんの声
2026.3 から
036

表紙にも掲載しています！

議会広報 インタビューズ シリーズ

こどもたちの笑顔とそれを支える方々にスポットを当てていきます！

大切に使った子育て用品を 次のお子さんに譲りませんか?

10月18日(日)宇美八幡宮境内で、子育て世代の方々が楽しく交流できる場を作るために、「子育て応援フリーマーケット」が宇美町共働事業提案制度採択決定事業（行政提案型）として開催されました。

地域の保護者の方々を中心に運営され、学生や宇美町リーダーズクラブによるお手伝いの姿もみられました。イベントは赤ちゃんの泣き相撲やハイハイレースなど充実しており、会場内は訪れた人々の笑い声で溢れていました。

子育て応援フリーマーケットを支える方々



実行委員長　渡邊佐智子さん

渡邊さんは、普段は桜原小校区コミュニティで活動されています。

これまでご家庭で大切に使われてきた子供服や子育てグッズを、必要な方に格安で提供できるフリーマーケットを開催することで、子育て支援とSDGsを実現したいと思い、イベントを企画しました。



ボランティアスタッフ柳原桃花さん（高3）

柳原さんは、相撲場で行われた泣き相撲などの運営スタッフとして参加されました。

以前から地域づくりやボランティア活動に興味があり、大学生スタッフからの声かけがきっかけで参加しました。

しっかり盛り上げて、このイベントが永く続いていくよう頑張ります。


フリーマーケットには20店が出店し大盛況!


フリーマーケットには、沖縄県から宇美町に転入してこられた石川さんファミリーも出店されました。

沖縄ではフリーマーケット文化が根付いており、よく出店していたので、今回の募集があった時には一番に申し込みされたそうです。

娘さんたちも自分で作ったアクセサリーを販売し、たくさん売れて満足そうでした。

おでかけとしょかん



宇美町立図書館からは「おでかけとしょかん」として電子書籍の動く絵本体験が行われました。

動く絵本は小さなお子さんも興味津々で、食い入るように見ていました。

議会からひと言　子育ての象徴である宇美八幡宮で新たな子育て支援事業が行われてうれしく思います。「子育てするなら宇美町で!」を合言葉に、今後も子育て支援の輪がさらに広がるよう議会としても後押ししていきます。

うみ議会だよりへのアンケートのご協力をお願いします!

いただいたご意見は、今後の議会広報を作成するうえで参考にさせていただきます。
読んで感じた率直な感想をぜひ、右部のWEBアンケートからお聴かせください!

議会傍聴メーター Gikaiboutyou Meter
2026年3月議会からの傍聴者 累計
9月定例会は20人が傍聴に来られました
050

【発行責任者】
議　長　黒川　悟

【議会広報常任委員会】
委員長　丸山康夫　委　員　鳴海圭矢
副委員長　小林孝昭　委　員　安川繁典
委　員　古賀ひろ子　委　員　安川禎幸

議会からのお知らせ

- 議会は年4回（3月・6月・9月・12月）定例会が開かれます。
- 議会ホームページからは生中継がご覧いただけます。
- 傍聴する場合は、役場3階の傍聴席入り口で住所・氏名をご記入ください。

次回の議会は12月4日に開会予定です。

「このまちが、いい。」と選ばれるまちに――。

令和7年度決算のここに注目!!

※万円未満四捨五入

9月定例会では決算審査特別委員会を設置し、令和7年度の予算の使い道が適正かつ効果的であったかどうかを審議しました。

なかでも議会が注目した町の事業成果について、評価や課題とともにピックアップしてお伝えします。

一般会計　歳出決算総額　178億6664万円

審議のようすはこちら↓（録画配信）

一般会計　特別会計

97号で取り上げた予算はどうなった?

安全な学習環境を確保 小・中学校水泳学習業務委託



命を守る着衣水泳学習

全小・中学校の水泳学習を民間に委託し、専門指導員のもとで習熟度に応じた指導を実施した。天候に左右されない安全な学習環境を確保でき、児童生徒の泳力向上や教職員の負担軽減など、教育環境の充実につながった。

決算額は2335万円で、ふるさと応援基金を活用。

問 水泳学習の民間委託による成果と費用対効果は。

答 **学校教育課長**

指導員や安全監視員も充実し、専門的な指導により「初めて25m泳げた（中3）」など、確認できている。

また将来的には、プールの維持に係る1校あたり8000万円以上の改修費負担の抑制などが見込まれる。

インストラクターの指導と見守りがあり、こどもが安全・安心に水泳に取り組めて、親としても心強いです。



西原さん家族

議会の視点

●安全確保と将来負担減

民間委託により、泳力向上や将来のプール改修負担軽減を評価。

今後も費用対効果の検証と、既存プールの有効活用にも期待したい。

97号で取り上げた予算はどうなった?

快適な利用環境へリニューアル 武道館改修事業



盛大に開かれた宇美八幡宮奉納宇美合気道祥雲塾演武会

建設後29年が経過した武道館の空調・トイレ・外壁・屋根・内部・昇降機・外構を改修。

社会体育施設・指定避難所として、安全性や機能性を確保するため実施した。

事業総額は、令和5年度から7年度で4億8788万円となった。（7年度決算額は2億7797万円で、地方債を一部活用）

問 改修後、避難者から施設へのさらなる要望はあったのか。

答 **地域コミュニティ課長**

6月の大雨時に指定避難所として開設し、3世帯4名が避難した。特段の意見や要望はなかった。

町民インタビュー



永山さん家族

空調が整い、畳も新しくなった武道館。快適な環境で、親子一緒に武道に集中できてうれしいです。

議会の視点

●避難所としての機能も向上

武道に親しみ技術向上につながる環境整備と、避難所機能の安全性・利便性向上を評価。

97号で取り上げた予算はどうなった?

ついに工事が完了 ひばりが丘災害復旧工事・動態観測事業

令和3年8月の大雨により被災した、町道竹ケ下～桜ケ丘線道路法面の災害復旧工事が完了した。

復旧作業を進める中、5年7月の大雨により被災箇所が増破したことから、工事の工法変更などを行った。

復旧工事と併せて、地盤を測定器などで定期的に観測する動態観測事業を実施し、安全性の確認も行った。

これにより事業総額は、国の交付金などを活用し令和3年度～7年度で9億996万円となった。（7年度復旧工事決算額は2億1582万円・動態観測事業決算額は2838万円）

問 動態観測事業による調査実績を今後の災害対策にどう活かすのか。

答 **都市整備課長**

3年度から事業を継続する中、過去に警報発信もあったが、現地確認で異常はみられなかった。

今後も地盤などの変状を確認するため、1～2年程度は事業を継続する。

地域の皆さんの安全・安心を願っております。

町民インタビュー



ひばりが丘ニ自治会 会長 真島　良弘 さん



待望の工事がついに完了!

議会の視点

●安全確認が重要

動態観測結果を公表することで地域住民の安全・安心が得られる。

動態観測事業の終了期限は慎重に判断してほしい。

97号で取り上げた予算はどうなった?

「書かない、回らない、待たない窓口」システムを構築 窓口支援システム導入業務

役場窓口での手続きにかかる申請者の負担を減らすための窓口支援システムを導入した。

決算額は913万円で、ふるさと応援基金と国の交付金を活用。

問 窓口支援システム導入による効果は。

答 **総務課長**

申請書を自動作成することで記入負担を軽減している。

今後、福祉・介護・保険など対象手続を順次拡大し、待ち時間の短縮と利便性の向上を図る。



※イラストは生成AIを活用

小さなこども連れには「書かない・回らない・待たない窓口」が助かります。雰囲気も良く、行きやすい役場になりました。

町民インタビュー



入江さん家族

議会の視点

●「書かない窓口」の充実へ

申請書記入の負担軽減を評価。

対象手続の拡充で、住民サービスのさらなる向上に期待したい。

「このまちが、いい。」と選ばれるまちに――。

令和７年度決算のここに注目!!

※万円未満四捨五入

健康づくりでポイントGET! 健康推進サポート事業



「脳にいいアプリ」で健康維持

健康増進・疾病予防・介護予防を目的に、生活行動に対してポイントを付与し、セルフマネジメント（自分で自分を管理すること）の促進を図った。決算額は１３６万円で国の交付金を活用。

問 利用者が増加しているが、事業の効果は。

答 **健康課長**
町民のセルフマネジメント向上に加えて、健康づくりや介護予防教室への継続参加率の向上にもつながっているのが最大の効果。

楽しみながら健康づくりができ、毎日続ける励みになります。



赤田　光代 さん

議会の視点

●**インセンティブの充実**
現代社会に合致した手法と評価する。
町民の健康増進のためさらなる利用者増を期待したい。

上水道事業会計 水道の有収率を引き上げる取組





令和7年度の有収率は令和6年度と比較すると2.82ポイント上昇した。
漏水による水の無駄を最小限にとどめる努力が必要である。

※有収率とは？
浄水場から配水した水のうち、漏水などで失われず、水道料金の収入につながった水の割合のこと。

問 有収率が年々上がってきている。現在91.87%だが、今後、さらに高める取組は。

答 **上下水道課長**
令和7年度では光正寺・井野地区など観音浦水系で合わせて28kmの漏水調査で、４か所の漏水が発見されたため修繕を行った。
漏水調査は4年度から行っており、今後も継続して取り組んでいく。

議会の視点

●**有収率向上は漏水解決が鍵**
有収率は年々上がっている。今後の漏水調査によって、さらなる向上に期待。

脱炭素社会の実現に一役 EV公用車購入事業


EV公用車

脱炭素化社会の実現に向けた取組の一つとして、リース満了を迎える公用車を電気自動車へ入れ替えた。
またこれに伴う電気自動車専用の充電設備も購入。
決算額は305万円で、国の補助金を一部活用。

議会の視点

●**公用車の導入効果**
EV公用車の今後の導入にあたっては、国の補助金や脱炭素推進事業債を活用し、経費の抑制を図りながら、今後も環境に配慮した取組を進めてほしい。

問 EV公用車3台に対し、屋外充電コンセントを5基整備しているが、今後のEV公用車の導入計画は。
また、燃料費高騰や環境負荷の低減を踏まえたEV導入による費用対効果は。

答 **管財課長**
今後の車検やリース更新時に導入を検討し、導入の際は国の補助金などを活用する予定。
費用対効果としては、燃料費や維持管理費の削減が期待される。

今後の事業成果に期待!

地域防災（機能別消防団員を募集）

令和7年度の火災件数は5件と例年より多く、これに伴い消防団の出動回数も増加した。
町は、火災予防の啓発活動などを担う機能別消防団員の募集チラシを作成し、企業への案内を進めている。
今後は、機能別消防団員の募集を積極的に進めていくことを望む。

公共交通の利用促進

のるーと宇美については、町民が実感できるサービス向上を図るとともに、高齢者や免許返納者、通勤・通学者など、必要な人が利用しやすい公共交通の確保が重要。
現在は、西鉄バス・太宰府市・宇美町の3者で利用促進に取り組み、ギャラリーバスなどを実施。今後も3者で協議し、さらなる利用促進とサービス向上を図ることを望む。

志免宇美線用地取得を推進

都市計画道路志免宇美線街路整備事業の第2期工事の用地取得率は、令和8年度当初時点で１１,０１６㎡。取得率は66.4%。
道路改良工事は、令和8年10月中旬から平成公民館付近を着手予定。
今後、井堰・橋梁下部工にも着手する予定。
引き続き用地取得を進め、早期の完成を望む。

議案審議

9月定例会

第3回 臨時会

定例会　臨時会

録画配信はこちら

9月定例会は、9日から28日までの20日間で開かれ、町長から提出された19件の議案と議員発議1件を審議し、全て原案どおり可決した。

一般質問では、8人の議員が町政全般にわたって9項目の質問を行った。

第3回臨時会は、10月15日に開かれ、町長から提出された1件の議案を審議し、原案どおり可決した。

9月定例会(9/9~9/28)

人事	4件
財産取得	1件
契約変更	1件
条例	3件
補正予算	2件
専決処分の報告	2件
決算認定	5件
健全化判断比率等の報告	1件
議員発議	1件

臨時会(10/15)

補正予算	1件

補正予算

嵐 富士関 応援事業

祝 嵐富士関 幕内昇進!

本町出身の嵐富士関が十両に昇進したことを受け、宇美町の名称が刺繍された化粧まわしを作成する。こどもたちに夢と希望を与える嵐富士関を応援するとともに、郷土愛を育み地域活性化を図る。460万円の予算を計上。



議会も嵐富士関を応援!

問　化粧まわしのデザインの考えは。

答　**シティプロモーション課長**
嵐富士関の意見を取り入れながら、町のPRにもつながるデザインを検討している。

補正予算

高 齢者運転免許証自主返納等支援事業

高齢者への支援

高齢者の運転免許証の自主返納後を支援するため、返納者に対してのるーと宇美や公共交通機関で使用できる交通系ICカードを交付する。高齢ドライバーによる交通事故の防止と、免許返納後も高齢者が安心して生活できるまちづくりを推進する。162万円の予算を計上。



問　周知、PRの考えは。

答　**シティプロモーション課長**
ホームページ、広報に加えて対象者に通知することを考えている。

町民の声

袈裟丸　安男 さん

★**ICカードは助かります!**
妻が免許証の返納を考えています。
ICカードは西鉄バス、JR、のるーとも利用できるので大変助かります。



補正予算

高 齢者インフルエンザ予防接種無償化事業

65歳以上の高齢者に対するインフルエンザ予防接種の自己負担金を無償化する。60~64歳で町が定める要件に該当する障がいのある人も、対象となる場合がある。対象期間は本年10月より来年3月まで。物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、1739万円の追加予算を計上。



町民の声

前田　路也 さん

★**これからの高齢者施策に期待します!**
大変ありがたい。早速、予防接種を受けました。これからの高齢者施策に期待します。





※金額は万円未満四捨五入

条例

手 数料条例の一部改正

コンビニ交付サービス拡大!

所得(課税)証明書の交付にマイナンバーカードを利用したコンビニ交付サービスを導入する。交付手数料は1通あたり250円。制度開始は令和8年12月1日から。令和9年6月30日までの間は1通あたり100円で利用できる。



町民の声

幸野　貴子 さん

★**ほんとに便利です!**
平日、仕事で役場に行けません。夜間や土日でも身近なコンビニで書類の取得ができるのはほんとに便利です。



補正予算

給 食室スチームコンベクションオーブンなどの更新

給食備品の充実



スチームコンベクションオーブン

※写真はイメージです。



ふるさと応援基金(子育て・教育環境整備事業)226万円を活用し、購入する。

●早見保育園　フードプロセッサー
●原田保育園　スチームコンベクションオーブン

財産の取得

補正予算

小学校3校(宇美小・宇美東小・井野小)のスチームコンベクションオーブンを整備する。機器の仕様は、各学校の提供食数の規模に合わせたもので選定。

契約額は、1657万円。

補正予算

宇 美東中学校体育館外壁工事等及び校舎B棟トイレ改修事業(追加工事)

臨時会

両改修工事の施工中に、国庫支出金及び地方債の対象外である附帯工事が必要となった。

工事内容は、体育館の全面合板床養生、校舎B棟トイレ仮設給水配管設置・電気配線・電気盤設置など。1375万円の追加予算を計上。

人事

固定資産評価審査委員会委員　吉本　壽絵　氏(新任)
教育委員会委員　吉村　順子　氏(再任)

自治功労表彰候補者の推薦　髙橋　敬二　氏

人権擁護委員候補者の推薦　濱渦　美子　氏(新任)

議員発議

地方議会の信頼回復に関する決議について

議会は、住民自治の基盤である。

住民にとって身近であるべき議会に、住民の理解と関心が得られない状況は、地方自治・住民自治の根幹に関わる深刻な問題である。

今般の福岡県議会を巡る一連の騒動がもたらす影響は、福岡県議会及び県政への信頼の失墜のみにとどまらず、地方議会全体への政治不信・信頼失墜につながりかねない。

よって、福岡県議会には、県民の信頼回復に努めていただくことを強く求めるとともに、宇美町議会においても、代表機関としての責務を果たし、今後も公正、公平かつ透明な議会運営に努めることをここに表明する。

提出者　鳴海　圭矢
賛成者　髙橋　紳章
安川　禎幸

全会一致で承認・可決した議案／報告議案　令和8年9月定例会　表決一覧

議案名	議案名
宇美町固定資産評価審査委員会委員の選任 （吉本　壽絵氏）	令和8年度宇美町一般会計補正予算(第2号)
宇美町教育委員会委員の任命 （吉村　順子氏）	専決処分の報告 （(専決第2号)和解及び損害賠償の額を定めることについて）
宇美町自治功労表彰候補者の推薦 （髙橋　敬二氏）	専決処分の報告 （(専決第3号)和解及び損害賠償の額を定めることについて）
人権擁護委員候補者の推薦 （濱渦　美子氏）	令和7年度　宇美町上水道事業会計利益の処分及び決算認定
財産の取得 （スチームコンベクションオーブンの購入）	令和7年度　宇美町流域関連公共下水道事業会計利益の処分及び決算認定
工事請負契約締結についての議決内容の一部変更 （令和７・８年度　原田中央区町営住宅６・７棟改修工事）	令和7年度　宇美町一般会計歳入歳出決算認定
宇美町手数料条例の一部改正	令和7年度　宇美町健全化判断比率及び資金不足比率の報告
宇美町道路占用料条例の一部改正	令和8年度　宇美町一般会計補正予算(第3号)
宇美町職員の高齢者部分休業に関する条例	(発議第3号)地方議会の信頼回復に関する決議

審議した議案と各議員の賛否

○は賛成　×は反対を表しています

議案名 ＼ 議員名	小林孝昭	安川禎幸	丸山康夫	平野龍彦	安川繁典	藤木泰	飛賀貴夫	鳴海圭矢	白水英至	髙橋紳章	審議結果	討論
令和7年度　宇美町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	可決	反対:鳴海 賛成:安川(禎)
令和7年度　宇美町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	可決	反対:鳴海 賛成:安川(禎)

全会一致で承認・可決した議案　令和8年第3回臨時会　表決一覧

議案名
令和8年度　宇美町一般会計補正予算(第4号)

※黒川　悟議長に表決権はありません。

討論



反対　**鳴海 圭矢 議員**

令和7年度　宇美町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定

負担が年々増加している。賦課限度額も14万円増加し80万円となっており、高齢者にとって重い経済負担となっている。



賛成　**安川 禎幸 議員**

医療が高度化し診療報酬額も増額する中で、誰もが必要な医療を受けるためにはこの医療制度は必要不可欠である。



反対　**鳴海 圭矢 議員**

令和7年度　宇美町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認

国民、町民の命と健康を守るためには、まずは国の予算国庫負担率を引き上げることが1番の先決事項である。



賛成　**安川 禎幸 議員**

国庫負担の関係もあるが、独立採算制が原則であり、制度としては、堅実に運営されている。



賛成　**鳴海 圭矢 議員**

令和7年度　宇美町一般会計歳入歳出決算認定

当初予算では反対したが、補正予算で上水道基本料金の4か月分減免が実現したことを評価する。

一般質問

町政を問う8人が登壇



一般質問とは定例会で行われ、議員が町政全般について、自分の意見や提案を含めて、町長などの執行機関の考え方や方針などを問いただすことです。

掲載内容は、質問者自身が要約し、広報委員会で校正しています。

髙橋（たかはし）　紳章（のぶあき）　議員 …… 10P
◆民間活力の積極的な活用を

白水（しろうず）　英至（えいじ）　議員 …… 11P
◆熊本地震・千葉豪雨を教訓に災害時の水確保は

古賀（こが）　ひろ子（こ）　議員 …… 12P
◆高齢者の生活に寄り添い、
必要な介護サービスを届けるために

鳴海（なるみ）　圭矢（けいや）　議員 …… 13P
◆戦争の記憶をいかに次世代に継承するか

平野（ひらの）　龍彦（たつひこ）　議員 …… 14P
◆アライグマ防除で感染症対策を

小林（こばやし）　孝昭（たかあき）　議員 …… 15P
◆食料品消費税引下げが飲食店に与える影響と
町の対策は

安川（やすかわ）　禎幸（よしゆき）　議員 …… 16P
◆「ゼロカーボンシティうみ」の取組と今後の方向性は

丸山（まるやま）　康夫（やすお）　議員 …… 17P
◆高齢者支援策の充実を

議会をもっと身近に
ライブ配信と録画配信をご視聴ください

ライブ配信・録画配信は
こちらから

宇美町議会では、議場で行う議会・特別委員会のライブ配信と録画配信を行っています。

ライブ配信は、議会の傍聴に来られない方のために生中継で配信しています。

録画配信は、議会のホームページから議案審査や一般質問の様子をいつでもご覧いただけます。字幕付きですので音声が聞き取りにくい方でも解りやすく、ご覧いただけます。

公民連携



私の視点「なぜここを質問したか」

地域コミュニティの担い手不足や公共施設の活用、地域活性化など、様々な課題がある。これらの課題解決に向けて、民間事業者などの創意工夫を取り入れるための推進体制を早期に構築する必要がある。

民間活力の積極的な活用を

髙橋（たかはし） 紳章（のぶあき） 議員

録画配信はこちらから ▶

答弁（町長）　行政と民間が互いの強みを活かし魅力あるまちづくりを進める

問　民間事業者などとの協定の締結状況は。

答　総務課長

令和8年9月1日現在で、締結している協定総数は98件。

協定内容は災害時応援をはじめ、安全安心なまちづくり、環境、教育・生涯学習、子育て応援などである。

問　協定締結後の評価・検証・見直しの実施状況は。協定の運用方法についてのガイドラインは。

答　総務課長

評価・検証・見直しは、原則各所管課で実施している。現在、締結されている協定の95％が自動更新で、1年以上具体的な協議が行われていないものもある。

今後、各所管課に向けた注意喚起を徹底する。

運用方法などを整理したガイドラインは設けていない。

問　一本松公園の整備と庁舎建て替えに民間活力を導入する考えは。

答　都市整備課長

一本松公園の整備は、本年7月に官民連携プラットフォームに参加し、民間事業者と事業の可能性について意見交換を行った。結果、公園整備に民間の活力を導入できる可能性はあるが、町と民間の役割分担を整理する必要があると考えている。

答　管財課長

庁舎建て替えへの民間活力の導入は、現在町として具体的な方針は定まっていない。今後建て替えに向けた計画を練る過程で、導入を含め検討する。

問　コミュニティの活性化や地域の課題解決のため、専門的な知識を持つ外部の専門家を招へいする考えは。

答　地域コミュニティ課長

令和6年度に、地域力創造アドバイザーを講師に迎え、全ての校区を対象に研修を実施した。

今後も地域の主体性を引き出す有効な手段として、各校区コミュニティの取組に応じ地域力創造アドバイザー制度を活用しながら、各地域の特色を活かした地域づくりを進めていく。

問　民間力を積極的に活用する公民共創のまちづくりについての町長の考えは。

答　町長

今後も行政と企業を含む町民などが、お互いの強みを活かしながら地域課題の解決や新たな価値の創生につなげることで、このまちがいいと思える魅力あるまちづくりを進めていく。



質問を終えて

民間企業の創意工夫を取り入れる仕組みを早期に構築し、本町の新たな魅力・価値の創生につながることを期待する。

公民連携で駅前開発が進んだ岩手県紫波町の取組（オガールプロジェクト）

災害時の水確保



私の視点「なぜここを質問したか」

大規模災害が発生した場合には、電気・ガス・通信などのライフラインが長期にわたり途絶える可能性がある。今回の災害を教訓に災害時の水源確保について、本町の現状と方針を問う。

熊本地震・千葉豪雨を教訓に災害時の水確保は

白水（しろうず） 英至（えいじ） 議員

録画配信はこちらから ▶

答弁（町長）　公共施設の井戸を活用し、防災井戸の利用を検討する

問　熊本地震と同程度の地震が本町で発生した場合、上水道・下水道管にどのような被害を想定しているのか。

答　上下水道課長

警固断層地震の想定では発災後、上水道は約80人、下水道は約100人の断水などの被害が見込まれる。

問　町内全域で断水となった場合、現在備蓄している飲料水は想定避難者に対して何日分確保しているのか。

答　地域コミュニティ課長

警固断層地震の想定避難者は約800人。飲料水は推奨3日分に対し、備蓄スペースの問題などから常時おおむね1日分を備蓄。ローリングストックにより備蓄の維持に努め、有事の際は災害協定で企業からの調達を行う。

問　飲料水以外のトイレ・入浴・洗濯などに使用する生活用水の確保は、どのように想定しているのか。

答　地域コミュニティ課長

トイレは、トイレトラック・仮設トイレ・簡易トイレ・携帯トイレで対応。

入浴・洗濯などの生活用水は、避難が長期化した場合、自衛隊の災害支援も活用することを想定している。

問　公共施設などに、災害時に活用できそうな井戸は備えているのか。また一本松公園の給水所は災害時に利用可能か。

答　地域コミュニティ課長

公共施設の中には、散水や雑用水を使用する目的で井戸を設置している施設がある。

一本松公園の「河原（ごうら）のしずく自動給水所」は、水質や設備に問題がなければ災害時の水源として活用する。

問　町内の既存井戸を把握しているのか。また、災害時に利用できる可能性は。

答　地域コミュニティ課長

約440世帯の井戸を把握。災害時の活用は、調査を実施しないと判断できない。

問　地域にあらかじめ水源を確保しておくことが重要だと考えるが、町長の考えは。

答　町長

災害直後は備蓄水、2日目以降は日本水道協会・自衛隊・国の支援で給水を確保する。今後、既存の公共施設の井戸や雨水貯留施設を調査し、実効性のある利用を検討する。民間井戸の活用は、地理的条件や課題を整理した上で判断する。



防災井戸の活用（手押しポンプ）



質問を終えて

大規模災害では、行政の支援にも限界がある。
一人一人が防災意識を高め、最低3日分の飲料水・食料・簡易トイレなどの備蓄をお願いしたい。

介護サービス



私の視点「なぜここを質問したか」

適切な介護サービスにつなげるための要介護認定調査の正確性の確保と、介護保険の利用の有無にかかわらず高齢者の自立した生活を支える見守りや日常生活支援の充実が必要だと考えている。

高齢者の生活に寄り添い、必要な介護サービスを届けるために

古賀（こが） ひろ子（こ） 議員

答弁（町長） 福祉サポーターの活動体制を発展させる

録画配信はこちらから▶

問 高齢者人口の推移と今後の見込み、ひとり暮らしの高齢者世帯数は。

答 健康課長

高齢化率は、2020年の27・7％から2045年には34・5％へ上昇する見込み。

65歳以上の高齢単身世帯は、2026年7月末現在で全世帯1万7155世帯中、3113世帯。

問 要介護認定申請件数、認定件数及び認定割合を、町はどう分析しているのか。

答 健康課長

申請件数の減少は、認定有効期間の延長による更新申請の減少が主な要因である。

一方で認定者数と認定率が緩やかに上昇しているのは、相談支援や見守り事業が行き届くようになったことが要因ではないかと捉えている。

問 介護認定を受けた方のサービスの利用状況と、これに対する町の分析は。

答 健康課長

本町では、介護サービスより医療の利用割合が高く、施設サービスの利用率も県全体を下回り減少傾向にある。

介護施設ではなく医療機関への入院を選択せざるを得ない実態があると分析している。

問 認定結果後、介護サービスの利用につなげるための取組は。

答 健康課長

認定後は、サービス案内の送付や3か月後の利用状況を確認し、未利用者には電話などで支援している。

独居・高齢者世帯などには、地域包括支援センターが速やかに介入し、必要なサービスにつなげている。

問 要介護認定で非該当、また支援が必要な高齢者に対する本町の介護予防日常生活支援総合事業の実績は。

答 健康課長

令和7年度の総合事業は、訪問型96件、通所型135件で、近隣自治体と同程度である。

相談からケアプラン作成、サービス利用まで円滑につなぐ体制を整えている。

問 介護人材不足や高齢者支援につながる「福祉サポーター」を、今後さらに増やす考えは。

答 町長

福祉サポーターとしての活動体制を高齢者の見守りや生活支援などへさらに発展させ、地域包括ケアの拡充につながるよう、地域全体で支え合う仕組みをしっかりと構築していく。



質問を終えて

高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる宇美町をめざして、引き続き取り組むことを期待したい。

認知症supporter caravan

福祉サポーター養成講座HP👆
福祉サポートを学びませんか

平和教育



私の視点「なぜここを質問したか」

戦後81年目となる今年、戦争体験者が減り、世界情勢が緊迫化する中でいかに次世代へ戦争の歴史を継承していくのか。町の姿勢を問う。

戦争の記憶をいかに次世代に継承するか

鳴海（なるみ） 圭矢（けいや） 議員

答弁（町長） 関係機関と協議を継続する

録画配信はこちらから▶

問 戦後81年を迎えて、戦争を体験した世代も少なくなってきた。こうした中で、戦争の記憶をどう継承していくのか。

答 総務課長

平成22年に核兵器廃絶と世界恒久平和の実現をめざす平和首長会議の趣旨に賛同し、加盟した。また、戦争でお亡くなりになられた方々への哀悼の意を表し、恒久平和を祈念するため、毎年原爆投下の日と終戦の日に黙とうをさげるよう呼びかけを行っている。

町立図書館では、毎年7月と8月に平和に関する特集展示を開催している。今年も7月24日から8月26日までの間、戦争と平和に関する本の特集コーナーを設置するとともに、県のホームページ「平和文化コーナー」への情報提供も行った。

これらの取組は、町のホームページに掲載するなど広く周知に努めている。

問 学校教育の中での平和学習はどうなっているか。夏休み中にオンライン登校で平和学習を実施してはどうか。

答 学校教育課長

社会科、道徳科などの授業で平和に関する学習を進めており、6月は多くの学校で福岡大空襲について学んでいる。また、小学校の修学旅行は目的地を長崎とし、事前研修、現地研修、事後研修を通じて学習している。

学習の機会は、国の指針に基づき、夏休み期間中は学校閉庁日を設定しているため、平時の授業の中でカリキュラムに沿って行っていく。

問 戦争の記録や証言を、デジタルアーカイブなどに体系的に保存してはどうか。

生涯学習の中で位置づけ、大人向けの講演会などを実施してはどうか。

答 総務課長

現時点で、新たな取組を行う具体的な予定はない。また、デジタル技術を活用した体系的な保存についてはシステムの構築、運用コストや専門人材の確保など、町単独での推進には多くの課題がある。

そのため、今後は福岡県公文書館をはじめとする関係機関と連携し、県が保有する公文書や戦争関連資料の活用を通じて、本町の歴史情報を保管・共有できないか協議していく必要があると考えている。

戦争の記憶を次世代へつないでいくための効果的な取組については、今後も関係課と協議を継続していく。



改修を終え、新たに
芳名碑が建立された慰霊塔



質問を終えて

平和の問題には終わりがない。
今後も、町民の皆さんと一緒に常日頃から考えていきたい。

感染症対策を



私の視点「なぜここを質問したか」

特定外来生物アライグマの防除で、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）などの人獣共通感染症を予防し、安心して暮らせる宇美町の実現をめざす。

アライグマ防除で感染症対策を

平野（ひらの） 龍彦（たつひこ） 議員

録画配信はこちらから ▶

答弁（町長） 関係機関と情報共有し防除・感染対策に取り組む

問 福岡県アライグマ防除実施計画への参画状況は。

答 **環境課長**
本町は計画に参加している。県からの情報提供や計画参加市町村による担当者会議を通じて、取組状況や防除に関する情報を把握し、計画に基づき防除に取り組んでいる。

問 県内のアライグマ捕獲状況は。

答 **環境課長**
防除実績は、令和6年度1944頭、7年度763頭。捕獲後、県の処分施設へ搬送されている。

問 町内のアライグマ出没状況は。

答 **環境課長**
町内各地で確認されており、被害相談は年間15件ほど受けている。また、アライグマの捕獲実績は、原田地区・障子岳地区がある。

問 住民からの「第一報」に伴う相談窓口対応や現場確認は。

答 **環境課長**
相談窓口は環境課で対応し、被害状況に応じて、専門の駆除業者の情報提供を行う。また、農地作物への被害の場合は、都市整備課へ引き継ぎ、対応している。
現場確認は、必要に応じて職員が行う。

問 箱わな捕獲機の貸し出しと、町独自の防除講習会実施の考えは。

答 **環境課長**
捕獲機は県から3基借用し、町に登録された防除従事者（13人）からの申し出により最長1か月の貸し出しを行う。
防除講習会は、県主催の年一回を利用しているが、町独自の講習会を実施し、防除従事者の登録を促進していく。

問 アライグマによる人獣共通感染症に対しての危機管理と注意喚起の周知方法は。

答 **環境課長**
県内のSFTS感染報告は令和7年度末で37名。アライグマから人への感染は確認されていないが、マダニに刺されることにより感染するといわれている。
相談者へはアライグマに近づかないよう注意喚起を行っている。今後の周知は、町の広報やホームページを活用する。

問 各課が横断的に連携する考えは。

答 **町長**
県をはじめ、関係機関や各課との連携を密にし、防除と感染対策に引き続き取り組んでいく。



町の防除講習会に参加



質問を終えて

町は、アライグマ対策を農業被害に留めず「公衆衛生・感染症対策」として捉え、町独自の講習会の開催や関係機関との連携が確認できた。

減税と飲食店



私の視点「なぜここを質問したか」

家計の負担を軽減する減税だからこそ、その一方で飲食店や働く人への負担が増えないよう、地域の雇用を守る対策が重要である。

食料品消費税率引下げが飲食店に与える影響と町の対策は

小林（こばやし） 孝昭（たかあき） 議員

録画配信はこちらから ▶

答弁（町長） 飲食店の声を把握し雇用への影響を注視する

問 食料品と外食の税率差が広がることで、町内飲食店にどのような影響が生じると考えているのか。

答 **シティプロモーション課長**
仕入税額控除の縮小による納税額の増加や事務コストの増加、さらに外食控えによる売上減少が懸念される。

問 消費税率の変更が町内飲食店における雇用に及ぼす影響は。

答 **シティプロモーション課長**
税率差の拡大による外食控えで売上・収益が減少した場合、勤務時間や人員配置、新規採用など、雇用への影響が懸念される。

問 制度変更前に、商工会と連携し、町内飲食店の意見を聞く考えはないか。

答 **シティプロモーション課長**
事業者の声を聴くことが重要と認識し、商工会と連携して町内飲食店の懸念や課題の把握に努める。

問 飲食店は多くの人の仕事で成り立つ、地域の大切な雇用の場である。人件費は仕入税額控除の対象とならないため、雇用を考慮した町独自の支援を検討できないか。

答 **シティプロモーション課長**
飲食店は、雇用や地域経済、町のにぎわいを支える重要な存在と認識している。現時点では町独自の支援策の検討には至っていないが、国・県の動向を注視し、商工会や飲食店との意見交換を通じて情報収集に努める。



※イラストは生成AIを活用

問 家計負担の軽減と地域経済・雇用の維持を両立し、町内飲食店で働く方々が安心して働き続けられる今後の町の取組について、町長の考えは。

答 **町長**
食料品の減税は家計負担の軽減につながる一方、町内飲食店への影響を懸念している。経営が急激に悪化する事業者が増えれば、国による支援も必要だと考えている。
町としても、商工会と連携して飲食店の実情や声を把握し、地域経済や雇用への影響を注視していく。また、町内での買い物や飲食が地域の雇用を支え、町民生活の向上につながるため、町民の理解と協力を広げ、町民とともに地域経済の持続的な発展に取り組んでいく。



質問を終えて

社会保障を支える消費税だからこそ、地域の雇用を守る視点も大切である。人件費への税制上の配慮についても、今後必要だと感じている。

環境



私の視点「なぜここを質問したか」

二酸化炭素の排出により地球温暖化が進行し、世界各地で気候変動の影響が深刻化している。将来にわたり地球環境を維持していくためには、ゼロカーボンへの取組が急務である。

「ゼロカーボンシティうみ」の取組と今後の方向性は

安川（やすかわ） 禎幸（よしゆき） 議員

録画配信はこちらから ▶

答弁（町長）　町全体でゼロカーボンの実現に向けた取組を進める

問　地球温暖化対策実行計画とは。

答　環境課長

本町は2050年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロを実現することを長期目標にしている。

地球温暖化対策実行計画は、この目標に向けて町や町民、事業者が取り組む基本的な方向性を定めたもの。

問　計画に基づいたこれまでの取組は。

答　環境課長

ごみの減量化、資源循環、リユース・リサイクル、省エネルギー対策などに取り組んだ。

具体的には、家庭用生ごみ処理機の購入助成、剪定枝などの再資源化、廃食用油の回収・リサイクルなど。

問　公共施設の省エネ推進や再生可能エネルギー施策は。

答　環境課長

これまで照明のLED化、空調設備の更新、公用車としてEV（電気自動車）と充電設備の導入などに取り組んできた。

現在は、電力調達と電気料金の削減を同時に行う※電力リバースオークションサービスの導入を計画している。

再生可能エネルギー由来の電力への切り替えによる二酸化炭素排出量の削減と、競争による電力調達コスト削減の両立を図る。

※電力リバースオークションサービス

複数の小売電気事業者がオンライン上で価格を競い合うことにより、競争性を確保しながらより有利な条件で電力を調達する仕組み。

問　脱炭素化の取組として、EVと充電設備に対する助成の考えは。

答　環境課長

糟屋地区では、個人住宅へのEVなどの助成は行っておらず、本町でも現在のところ助成は考えていない。

今後は国や県の動向を踏まえて、脱炭素化に向けたより効果的な取組を進めていく。

問　ゼロカーボンシティうみの将来像は。

答　町長

町民、事業者、行政がそれぞれの立場で行動して町全体で取り組みを進めていく必要がある。

二酸化炭素排出量を2030年度に48％削減という目標達成を一つの節目とし、事業成果を検証しながら町民や事業者と連携して、ゼロカーボンの実現に向けた取組を着実に進めていく。



LED照明により、夜間でも明るくなった総合スポーツ公園



質問を終えて

2050年の目標に向けて全町あげて精力的な取組がなされていると感じる。

「ゼロカーボンシティうみ」の将来に期待したい。

高齢者福祉



私の視点「なぜここを質問したか」

宇美町総合福祉計画の策定と併せて、本町の高齢者対策をより充実させ、いつまでも住み続けたいと感じてもらえる町の実現が大切である。

高齢者支援策の充実を

丸山（まるやま） 康夫（やすお） 議員

録画配信はこちらから ▶

答弁（町長）　さらに強く力を注いで取り組む

問　本町の高齢化率の推移は。

答　健康課長

平成17年は15・3％、平成27年は23・3％、直近の令和8年は29・8％と推移している。

令和12年には31・1％となる見通し。

問　高齢者の交通手段確保の一つとして、運転免許証返納対策の取組は。

答　副町長

今後、JR・西鉄バス・タクシー・のるーと宇美など幅広い交通手段で利用できる交通系ICカードを、運転免許証返納後の初回に限り、1万円分交付することとしている。

問　老人福祉センターの老朽化の現状と閉館予定は。

答　健康課長

建築から既に47年が経過しており、近年では雨漏りや機械の破損が相次いで発生するなど老朽化が深刻化している。

また、町民に民生委員・児童委員を知ってもらうために、広報やホームページで活動内容を周知している。町としても人材確保に向けたバックアップ体制を強化し、担い手の確保に努めていく。

問　老人福祉センターの代替施設についての方向性は。

答　管財課長

公共施設再配置計画では、し～ず・うみへの機能移転を計画していた。その過程で、し～ず・うみの北側法面が土砂災害警戒区域の調査対象となったため、現在は当初計画していたし～ず・うみへの機能移転のほか、別施設への機能移転も選択肢として検討している。

問　民生委員・児童委員の確保と育成の取組は。

答　福祉課長

会議回数の削減や地域からの相談を受けた際は速やかに公的機関に引き継いでもらうなど、活動の負担軽減と活動しやすい環境づくりに取り組んでいる。

施設は公共施設再配置計画に示しているとおり、令和9年度末で閉館する方針である。

問　すべての高齢者に、ずっと宇美町に住み続けたいと感じてもらえるまちづくりの方向性は。

答　町長

高齢者の方々がいつまでも生きがいを持ち、安心して自分らしく暮らすことのできるまちづくりをめざして、高齢者施策全般にさらに強く力を注いで取り組んでいく。



老朽化が進む老人福祉センター



質問を終えて

今年は高齢者福祉計画策定の年であり、しっかりした計画を策定し、いつまでも住み続けたい町”うみ”を実現してほしい。

総務建設常任委員会



水洗式で照明設備やバリアフリー機能も備わっている
防災トイレトラック

災害用トイレトラックが熊本県宇城市へ初出動

8月20日（木）令和8年熊本地震による被災地支援として、町が所有する災害用トイレトラックを熊本県宇城市へ派遣。避難生活における衛生環境の確保と、被災された方々の尊厳を守るための支援を行った。

全国の自治体が相互に支え合う「災害派遣トイレネットワーク」の一員として、宇美町も被災地支援に取り組んでいる。

委員会コメント

今回の派遣で得られた経験や課題を今後の防災対策に活かし、町民が安心して避難生活を送ることができる環境整備と、災害に強いまちづくりをさらに進める。

地域防災力の強化に向け地域コミュニティ課と意見交換

当委員会は、今年度の活動方針を「地域防災力の強化」とし、自主防災組織の構築や有事の際の備えについて調査・研究を行っている。

9月28日（月）9月定例会終了後、宇美町防災備蓄倉庫を視察し、地域コミュニティ課と意見交換を行った。

町内の自主防災組織の現状をはじめ、自治会で備えておくべき防災備品の内容、町と民間事業者との災害支援協定の内容などについて協議した。

今後の地域防災力の強化に向けた取組の再確認を行うことができた。



個数などが適切に管理された防災備蓄倉庫
ただし備蓄には限りがあるため、各家庭での備えも必要





企業版ふるさと納税で物納された
移動式ガス回転釜（100食分調理可能）5台と調理台1台

委員会コメント

自主防災組織の立ち上げや設立後の活動を支援するとともに、防災士と自治会との連携を進め、地域防災力の向上に継続して取り組んでいく。

厚生文教常任委員会

中学校部活動の地域展開の取組を視察
日程　令和8年10月16日　視察先　長崎県長与町（ながよちょう）

長崎県長与町は、令和5年4月から休日の全ての運動部活動を民間のスポーツクラブが運営を担い「地域スポーツ活動」として取り組まれている。長与町における取組の現状や今後の方向性について、長与町教育委員会の金﨑教育長より説明を受け、のちに長与町議会と意見交換を行った。

― 長与町立中学校 ―

・中学校数　3校
・生徒数　1,114人

― 現在の長与町地域スポーツ活動 ―

・12種目21活動 331名が参加
・指導者数　63名

※R8.4.1 現在

― 長与町における取組 ―

・指導者人材の拡充や指導者の質の向上として、大学生ボランティアの確保や指導者研修会を定期的に実施。
・財源は自主財源のほか、国や県の委託金・補助金の活用に加え企業版ふるさと納税や民間企業からの寄附・協賛などで賄われている。



金﨑教育長による説明



当町の教育委員会職員も参加した



長与町議会との意見交換



厚生文教常任委員会委員

委員会コメント

関係者の声では「他校との交流で友達が増えた」「ちゃんとした指導が受けられるようになった」「教職員の負担も減った」 など生徒、保護者、学校から好評であることが伺えた。

財政面では地元企業から支援を受けており、地域との連携の重要さを感じるとともに、何よりもこどもたちが中心であるべきという考えに、共感した。

長与町議会とは、議会の立場からこの事業が円滑に進んでいくための支援について活発に意見交換を行うことができ、有意義な視察となった。

今後、本町での中学校部活動の地域展開を進めるうえで参考にしていきたい。